

# 産科混合病棟ユニットマネジメント研修報告

## (助産実践能力強化事業)

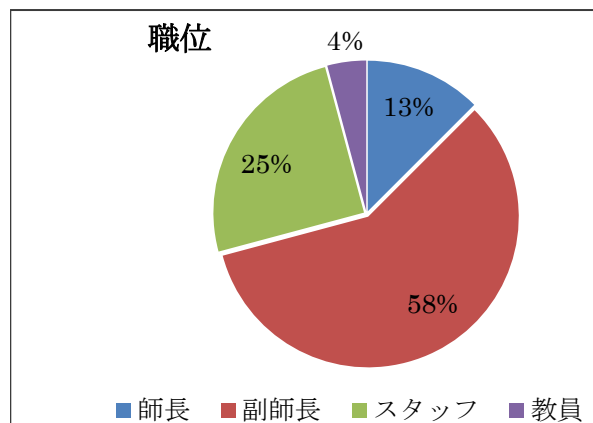
2012年の日本看護協会による産科混合病棟の割合は77.3%と報告されています。出産数の減少にともない混合病棟がさらに増加していくことが予測され、産科混合病棟に勤務する助産師は助産ケアだけではなく、他科患者への看護も担わないといけない現状を踏まえ、母子の安全の確保のためユニットマネジメントの導入および維持をする必要があると考え今回研修を計画しました。参加者は、35名(学生8名含)でした。

講師は、日本赤十字社医療センター副看護部長 井本寛子氏をお招きし、日本の産科医療提供体制における助産師の現状、助産師の必要人数、助産師の業務を始め、産科混合病棟の現状、ユニットマネジメントの提案について講義していただきました。講義の後は、「各施設における産科混合病棟ユニットマネジメント推進課題」をテーマに勤務する施設の混合病棟における課題を抽出し、解決する方策を得る事を目的としたグループワークを行いました。

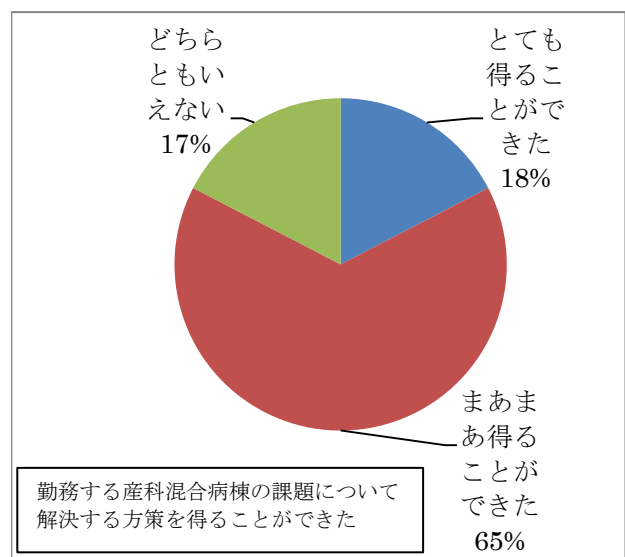
参加者の65%が混合病棟で勤務していました。アンケート結果より、講義、グループワークを通し、ユニットマネジメントの考え方が理解でき、各施設で産科混合病棟の課題について問題提起でき、各勤務する産科混合病棟の課題の情報共有ができたとの回答が多く、今回の研修において目的の成果を得たと考えます。



講義風景

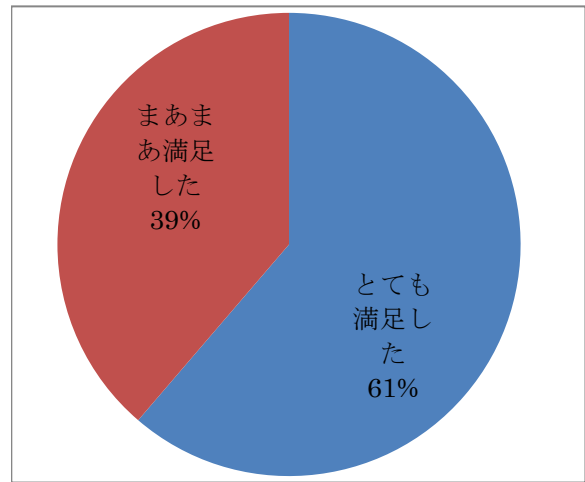


井本 寛子氏による講義風景





グループワーク風景



グループワークに参加して満足できたか